

TENDAI +Links No.5

生涯教育専攻 子育て応援プロジェクト通信

夏の暑さもふきとばす、
父子のクッキング教室！

Project for
Community-based
Childcare Support



もくじ

「父親の子育て応援」を起点に
世代を結び、まちを元気にする
ト部 眞規子 1

SCENE.8 第4回パパスクール
クッキング教室

回を重ねて、
深まっていくつながり
三鬼 司 6

天理のまちに広げたい、
ここで生まれたつながり
上田 新平 11

喜怒哀楽、
「喜」と「楽」のパパスクール
福井 隆太 14

五感で感じる教育
貴村 陽香 18

編集後記

「父親の子育て応援」を起点に世代を結び、まちを元気にする

NPO法人ファザーリング・ジャパン関西

卜部 眞規子

美しく整備された駅前広場コフンには、子どもたちの弾む声が響いています。久々に訪れた天理駅前が洗練された空間に生まれ変わっていて、隣町で生まれ育った私は感動すら覚えました。少し行けば、美しい銀杏並木の下を学生さんたちが闊歩しています。

一方、厳しい少子化の波が押し寄せているのはこの街も例外ではありません。学生人口の多い天理市ですが、卒業すれば外へ出ていく人が多数。これからの未来を担う若い人たちが、どうすればここに住み続け、この地で子育てをし、生活していきたいと思うのか。「天理市若者世代男女共同就業促進事業（以下、本事業）」はそんな課題意識から始まっています。

本事業の企画・運営は、父親の子育てを推進するNPO法人ファザーリング・ジャパン関西（FJK）が担っています。私はFJKのスタッフとして、本事業の初年度企画から携わってきました。特にへっぽ地元Vである天理市



みんなでつくって、みんなで食べる！今号はクッキング教室の特集です。パパさんたちも盛り上がりました！

にかかわれること、また私自身子育て真っ只中の当事者であることが、この事業への思い入れを一層強くしています。

私が大学を出て就職した当時は「結婚したらやめるのか？」と尋ねられることが多く、妊娠中に夫の転勤を打診された際には、「誰々さんの妻も同じ状況で仕事を辞めて育児に専念した」というエピソードつきでした。また自分の母親やその周囲を見渡しても、ほぼ当然のように女性が主で家事育児を担っていましたので、結婚・子育てに対する役割のイメージは無意識的にそういった刷り込みで形成されていったように思います。

結局出産後に会社を辞め、夫の転勤先に帯同したのですが、夫は激務となり帰宅は連日午前様。私自身は、十分な周囲のサポートなく二十四時間体制で小さな命を守る過酷さ、社会から断絶されたような深い孤独感を味わいました。

なぜこうなると事前に行き先がわからなかったのか、なぜ会社を辞めてしまったのか。世の中の子育てにまつわる悲しいニュースを目にするたび、そんな思いが駆け巡りました。この原体験が、NPOスタッフとなった今の私を突き動かしています。

時を経て、共働き世帯数は過去最大を更新し、仕事も子育ても共に充実させた

いと願う人が増えました。ますます夫婦の意識的な役割シェアが必要な時代です。発展途上にある「父親の主體的な子育て」を推進することで、男女の区別なく自分らしく活躍し、安心して子育てできる人が増える。また、そのような子育て世代のロールモデルに若い世代が共感し、ここに住みたいと思ってくれる。「父親の子育て応援」を基点として、私たちがめざす大きな目標はここにあります。

昨年度、「パパティーチャー」（父親が先生となって、学生さんに子育てのリアルを講義する授業）の企画をきっかけに、生涯教育専攻の杉山先生とご縁をいただきました。さらに今年度は一年生のみなさんと年間を通して本事業にご一緒できることになりました。学生さん一人一人とのかかわりも深くなり、回を追うごとに取り組みの意義、厚みが増していることを実感します。

5月の初顔合わせのとき、「なぜ、この大学を選んだのか」というストーリーを皆さんから伺いました。ここに至るまで様々な濃い経験や思いを抱えてきた皆さんは、自分たちが思っている以上に感受性豊かで、人の心の動きに



「とにかく優しい!」「めっちゃ話を聞いてくれる!」「姉さん!って感じ」と学生からも大人気の卜部さんです。

も敏感で、こんな細部までじっくり見ているんだなあ…、と心が震えたことを思い出します。その感性は現場でも非常に生きていて、事業の一環である父子向け講座「パパスクール」の「天理」に立ち会ってくれた際には、参加者の態度の変化を見逃さない皆さんの鋭い考察に、思わずメモを取る手を止めて聞き入ってしまったのでした。

「生身の体験」を重視される杉山先生の授業こそが、学生さんたちの力をより一層引き出しているのだと思います。現場と一緒に入ってその空気を吸い、そこでの体感をアウトプットする学びのあり方。たくさんさんのロールモデルに出会い、考えた経験は、これからの「生きる力」につながると思います。私も若い時にこんな授業を受けたかった!

改めて、このような協働のかたちを好意的に作ってくださった天理大学、杉山先生、学生の皆さんとの出会いに感謝するとともに、こんな素晴らしい環境が天理市にはあるよ!と広く伝えていきたいです。私も皆さんの感性に刺激を受けながら、引き続き事業推進の一助となっていきたいと思えます。



天理市、NPO 法人、学生が互いの強みを活かしたチームワークを武器に、天理のパパの子育てを応援しています！



SCENE 7

第4回パパスクール クッキング教室



夏野菜たっぷりの
カレーをつくる
父と子の総力戦、スタート！

7月20日(土)、第4回目を数えるパパスクールは、会場を天理市前裁公民館に移して「クッキング教室」です。この日は、前年度に認定されたパパマイスターの父子も合わせて7組15名の参加がありました。この日の講師は、NPO法人ファザーリングジャパン関西(FJK)の天下最弘氏。洋食屋さんのオーナーシェフよりカレーのつくり方やクッキングのコツを学ぶとあって、お父さんもお子さんもみんな大興奮です! さあ、今回はどんな名場面が生まれることでしょう。学生メンバーの記事を通じて、当日の様子を読者の皆様へお届けします。





プロのシェフが こっそり伝授する 料理の極意とは…

回を重ねて、深まっていく
つながり

三鬼 司

七月二十日日曜日、夏休み前最後のパバスクール「天理！第四回では「クッキング教室」が開講されました！舞台も、いつもの保健センターから前裁公民館に移りました。今回は、天理大学から一回生の僕たち四人に加えて、四回生の先輩である高山さん、そして、杉山先生の六人で参加させていいただきました。

今回、みんなで作った料理は…、みんなが大好きなカレーです。しかし、ただのカレーではありません。第三回パバスクールの時に、パパさんたちが話し合っ
て考案した「天理コフフンカレー」をつくっていき

まずはお父さんとお子さんに分かれて、輪になってウォーミングアップです。お父さんたちは自己紹介、お子さんたちはリズム遊び。それが終われば、さあ、クッキングのスタートです！...と思いきや、お父さんたちのカレー談義がヒートアップ。いきなり大盛り上がりです。パバスクールも去年から回を重ねてきましたが、それに合わせて参加されるお父さん同士のつながりも深まってきていると実感しました。



ます。

今回は、FJKより大下最弘先生に講師として来ていただきました。お料理の作り方を教えてください。お料理の作り方を教えてください。お料理の作り方を教えてください。お料理の作り方を教えてください。お料理の作り方を教えてください。

七組十五名のパパさんとお子さんたちが参加してくださいました。これまでも一緒にしてきた顔なじみの方々や昨年度パパマイスターを授与された方々が参加されました。お子さんたちは初めからリラックスしている様子で、とてもわくわくして活動を待っているのが一目で分かりました。パパさんたちも今回の教室への期待度が高かったのです。ようか、初めの自己紹介で



は、お子さんたちより長く、楽しそうに語らっていらっしやっただのがとても印象的でした。

さて、カレー作りは、三グループに分かれて食材の下ごしらえをし、大鍋にその全てを合わせる形で進めました。実際に包丁や火を使うため僕たちもお子さんへのサポートにあたりますが、パパさんとお子さんたちが料理をすることや親子で協力することの楽しさや体感してもらうために、父子二人一組で下ごしらえをしてもらいました。

途中、お子さんたちが（僕たちがサポートに入っ）自分たちでできる作業、パパさんがしてあげる作業といった活動の境界線を設定し、段取りよく料理が進んでいったのも印象的でした。

た。パプリカの皮をむき終った。くくんが、周りの友だちのテーブルをまわりながら「もっとこうしたらうまくできるよ」、「もっとこうしたらパパが楽になるね」と声をかけてあげているのを目にして、参加者同士の関係も深まっていたことに気づかされました。ふと、第一回目のパパスクールの頃が随分と昔に感じました。

また、個人的にとってもびっくりしたのが、パパさんたちの料理の手際の良さでした。偏見かもしれませんが、小さい頃から家の台所

はお母さんの場所で、お父さんは出入りしないというイメージが強かったです。そのせいか、勝手に「お父さんは料理が出来ない」という印象を持っていました。しかし、今回参加していただいたパパさんたちはとても料理の手際が良く、みんな料理の上手なパパさんばかりでびっくりしてしまいました。そうしたこと

が、お子さんたちの料理への緊張を和らげ、楽しく参加できていた理由なのかな、と思いました。カレーも完成が近づいて

父子で一緒に料理をして過ごす姿を目にして、子育ては楽しくやりがいのあることなんだと気づきました。

ファンカレーではありませ

ん。お子さんたちが切ったり焼いたりした夏野菜やウインナーなどのトッピングを自分の好みに盛り付け、自分だけの天理コフンカレーに変身！世界でたった一つの天理コフンカレーの完成です！完成したカレーをとんでもおいしそうに食べていて、お子さんたちやパパさんの笑顔は忘れられません。

夏休みに入り、パパと遊ぶ機会はこれから増えていきます。子育ては、とても大変なことかもしれませんが、今回、今回のクッキング教室でパパさんお子さんも一緒に料理をして過ごす姿を目にすることができ、子育ては楽しくやりがいのあることなんだと思えるようになってきました。



長い夏休み、引き続き怪我や事故のないよう父子で楽しんでいただけたらと思います。

今回は、最後のパパスクルゴ天理！八月二十四日は「修了式&パーティー」です。パパマイスターの授与式の後は、父子の運動会も企画されているとか…。少し先になりますが、また皆さんに会えることを楽しみにしています。

天理のまちに広げたい、ここで生まれたつながり

上田 新平

クッキング教室と聞いて、私なんかは学校の家庭科の授業で経験した調理実習を思い浮かべてしまうの

ですが、皆さんはいかがでしょうか。料理遍歴のほとんどが小学校から高校での調理実習に占められているせいか、真っ先に調理実習を思い浮かべてしまうのです。さて、学校の調理実習では、教員がメニューを考え（あるいは家庭科の教科書に載っているメニューを選び）、生徒が調理して、食べるという流れがあったと思います。その目的は、調理を通して子どもが学び、成長することに集約されます。

では、調理実習と今回のクッキング教室とは、どこが違うのでしょうか。最も大きく分かりやすい違いは、この事業がパパスクルだということです。パパスクルのクッキング教室では、工程の全てにパパが





関わることになります。

例として、今回は「コフ
ンカレー」という、カレ
ーを天理駅前のコフフンに
見立てて盛り付ける面白い
アイデアが考案されました。
このアイデアは、前
回のパパスクールでパパさ
んたちが話し合って生まれ
たものです。

また、この日の実際の調
理では、パパとお子さんが
一緒になってつくり、完成
したカレーを参加者全員で
食べて楽しめます。パパス
クールなのでお子さんと共
に楽しむことは前提です
が、あくまで主体はパパに
なり、パパにもっと育児の
楽しみを知っていただく、
またパパ同士の交流が目的
の事業です。このように整
理すると、同じ調理が中心
の活動でも、全く調理実習
とは違うことを実感しまし



スペシャルカレーの
完成です!

父子の力を総結集、の

た。

パパ同士の交流は、パパスクール全体を通しての目的でもありません。この目的は回を重ねるごとに進展してきましたが、今回は、調理中も自然なコミュニケーションが生まれ、食事の場面でもテーブルを囲んで楽しい団欒の時間を過ごせたので大成功と言っているのではないかと思っています。また、食後のパパ同士の交流では、子育てトークや最終回である次回の運動会企画の話し合いも和やかに進みました。

ここでできた縁がこの場限りのものではなく、日常生活に浸透していく、天理のまちに広がっていく、さらにはパパスクールをこれからのような縁をつくることのできる場にしてい

ここでできた縁が天理のまちに広がっていき、これからもパパスクールをそんな縁が生まれる場にしていききたいです。

くことができたら、と強く願っています。

喜怒哀楽、「喜」と「楽」のパパスクール

福井 隆太

「喜怒哀楽」という四字熟語があります。喜び、怒り、哀しみ、楽しみ、といった様々な人間の感情を表す言葉です。「喜び」と「楽しみ」はポジティブな印象を受け、「怒り」と「哀しみ」はネガティブな印象を受けます。

「怒り」は苛立ち、腹立ち、といった激しい攻撃的な感情で

す。「哀しみ」は嘆く、涙を流すといった抑うつ的で静かな感情です。この二つのネガティブな感情の違いは、かなり明確です。では、ポジティブな感情である「喜び」と「楽しみ」はどうでしょう。激しい、静か、などの明確な違いを見つけるのは難しく感じます。

第四回のパパスクール、クッキング教室のお手伝いに参加させていただいて、「喜び」と「楽しみ」の違いについて、気が付いたことがあったので書いていこうと思います。

この日のパパスクールが終了して、スタッフによる振り返り場面で、とあるエピソードが話題とな







みんなで
何かを
書いてるけど



最終回まで
ナイショです！

りました。参加者のお子さんの一人が、カレーのルウの空き箱を大切に持っていき、家に持って帰ろうとされたそうです。きっと、その空き箱が工作の材料にうってつけだったのでしょう。この話題から、次回が最終回となるパスクール修了式では、お子さんたちに家で帰って帰れるお土産があれば喜んでもらえるのではないだろうか、それをきっかけにパスクールのことがご自宅で話題になったり、修了後も何かの拍子に思い出していたりするのではないか、とアイデアが膨らみました。

お土産に関わるエピソードは、もう一つあります。カレーのトッピングのパプリカの種を抜くときに、今度はその種をキッチンペーパーで大切に包んだお子さんがいたことです。水



洗いたパプリカから出た種を集めて、「持って帰って埋める！」といって嬉しそうにキッチンペーパーにその種を包んでいました。クッキングの過程で出た、調理には使われない種も、そのお子さんにとっては宝物のようなお土産になったわけです。

このお土産に、「喜び」と「楽しみ」が関わっていると思います。からだ遊び、ダンボール遊び、マジック遊び、ものづくり、クッキングといったテーマを通じて、これまでのパスクールでは、「楽しい」という感情が遊びながら父子に体感されてきました。それを、思い出、お土産という形で持って帰ることでうれしくなるという、「喜び」の感情が変わるのだと気づきました。「楽しみ」の感情を、思い出、お土産という「喜び」の形にして保存するともいえます。つまり、「楽しみ」を得たことに対して生まれる感情が「喜び」

子育てトークから



デカラは、ダテじゃない！

といえるのではないでしょう
か。

次回は、修了式です。これまで通り、プログラムを通じて「楽しみ」が生まれ、共有されるのだと予感します。そして、最終回だからこそ、この日の思い出、全5回の思い出の「喜び」を感じてもらえるようなお手伝いができるよう、頑張ろうと思います。

五感で感じる教育

貴村 陽香

七月二十日に行われたクッキング教室には、初めて学生メンバー全員が顔をそろえて参加しました。

私は、これまで第一回目のからだあそび教室にしか

お昼のランチを終えて、午後の時間は子どもたちとお父さんたちが分かれての活動に入ります。回を追うごとに盛り上がりが高まっていく、お父さんたちの交流。今回は、「クッキング」を入口に家庭での子育ての様子、子育てに対する考えを交流しました。子どもたちは別室で何か書いていますが…。おっと、それが終わったら新聞紙遊び！まだまだ元気、ダイナミックにみんなで遊びます。おや、お父さんたちの交流では最終回の企画内容が話題になっていますね。「からだ」や「体験」といったキーワードが飛び交っていますが…。



今後の
企画アイデアまで

天理のパパ

参加したことがなかったため、初めてお会いするお子さんが多かったです。前回、前々回も参加した他の学生メンバーのことは覚えてくれているお子さんも多く、子ども同士で自己紹介し、みんなのできる遊びをする最初の段階から距離感が近かったなと思います。

この日つくったメニューは、前回のものづくり教室でパパさんたちが話し合って決めた「コフフンカレー」。

この日の講師であるFJKの山下さんが、パパさんたちに調理の工程を説明している間、お子さんたちと表面を炙ったパプリカの皮をむく作業にあたりました。

私は、君と一緒にしたが、君は皮の



さあ、いよいよ次回でパバスクールもラストですね。また今年も天理市に新たな「パパマイスター」が誕生します！

むきやすい方法を発見し、他の調理台へ「こうやったらむきやすいよ」と教えに回ってくれました。これは初めて出会った子ども同士では生まれないコミュニケーションで、複数回にわたってパバスクールに参加し交流してきたことで培われた距離感があるからこそだと思いました。

パパさん同士の交流会の間、今回も新聞紙遊びをしました。この日、前半のクッキングやランチの時間帯には調理台ごとの活動が中心だったので、私はさん、さんの二組の父とご一緒させていただきました。全体としては、最初の自己紹介でしか顔合わせをしていませんでした。しかし、このダイナミックな新聞紙遊びが始まるやいな

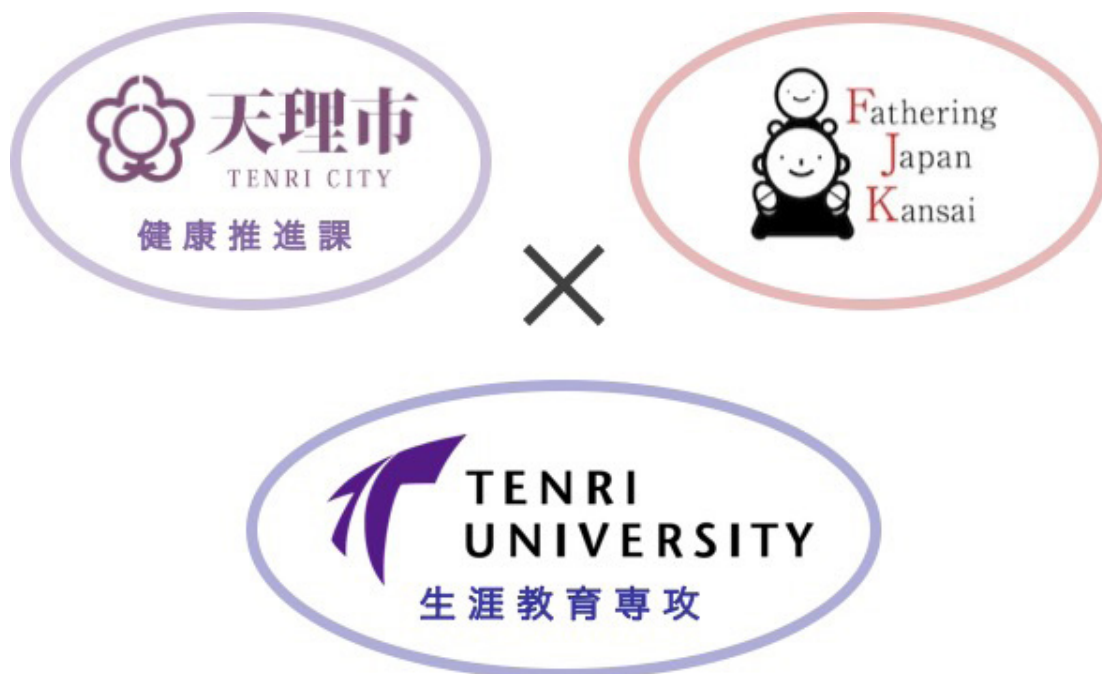
や、お互いに新聞紙をかぶせあって一緒に遊んで、お子さんたち同士の距離が一瞬で縮まったことを感じ、新聞紙遊びは偉大だなと感じました。

この日一番印象に残ったのは、大下さんの「五感で感じるのも教育」という言葉です。パブリカを炙ると甘いにおいがする。野菜の切り方を教えてもらう、実際に包丁を持って切る、混ぜる。それだけじゃなくて焼ける音、色、におい、五感で感じることも含めて「教育」であるということを感じました。

いよいよ夏本番、ジリジリと暑い時期がやってきました。

今号では、いつもお世話になっているNPO法人ファザーリングジャパン関西のト部眞規子様に巻頭言をご寄稿いただきました。その原稿からも伝わってくる通り、本事業で一緒にさせていただいているFJKの皆様も、天理市健康推進課の職員の皆様も、お一人お一人が大変厚みのある人生経験を重ねられてきています。学生たちにとっては、本事業を通じて出会うお父さんたちはもちろん、スタッフの皆様もまた貴重な人生のロールモデルです。年間を通じて事業をご一緒させていただく中で、それぞれの学生がこれからの人生を考えるかけがえのない学びの時間を得ております。このことにはあらためて深く感謝の意を表します。

さて、あっという間に次回でパパスクールも最終回です。修了式・パパマイスター授与式、懇親会、交流企画など、盛り沢山の楽しい一日になります。引き続き学生たちと事業に参加し、本通信でその様子をお届けしてまいります。



TENDAI +Links No.5

生涯教育専攻 子育て応援プロジェクト通信

発行日 2019年8月24日
編集・発行 天理大学 人間学部 人間関係学科 生涯教育専攻
協力 天理市健康福祉部健康推進課
NPO法人ファザーリングジャパン関西(FJK)
連絡先 〒632-0032 奈良県天理市杣之内町1050
shimpei@sta.tenri-u.ac.jp (担当: 杉山 晋平)
